

事務事業評価シート 令和 2 年度事後評価・決算

令和 4 年 2 月 10 日時点

事務事業名		コード	18000 海上健康増進センター管理費(活動費含む)	予算科目	会計	款	項	目	事業種別	担当班	庶務企画班
基本施策		5	保健・医療の充実	根拠法令	旭市健康増進センターの設置及び管理に関する条例	4	1	1	☒ 主な事業		
施策の展開		11	健康づくりの推進	戦略事業	47	健康増進センター事業			☐ 国土強靱化地域計画		
施策の展開		12	病気予防対策の充実	戦略事業					☐ 新市建設計画		
									☐ 定住自立圏構想		
									☐ 主要事業		

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間		② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない		③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状		④ 事務事業に関する課題・環境の変化		⑤ 事務事業に対する住民からの意見等	
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 15 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 令和 年度まで		海上健康増進センターで利用者は設備を利用して運動ができる。 面積:トレーニングルーム120㎡、プール9m×15m 利用者:中学生以下及び医師からの指導等がある場合は使用できない。 開館時間:8時30分～17時15分(火・木は21時まで) 休館日:月・祝日・年末年始 利用料金(両方利用):市内1回300円・月3,000円、市外1回450円・月4,500円 内容:①有酸素運動(呼吸しながら楽に運動する。例エアロバイク) ②無酸素運動(各種マシンを使用した筋力アップ運動) ③温水プールでの歩行 ④健康運動教室(週5コース)		介護予防拠点整備事業費補助金を活用し、トレーニング機器や温水プールを使用し高齢者の介護予防はもとより青壮年層を対象とした生活習慣病予防を目的として設置された。		・運動指導は、市直営ではなく委託に実施。 ・平成20年度からは全利用者から負担を徴収し、市外の利用者も可能とした。 ・平成26年10月より再度、利用者負担の見直しを行った。 ・利用者は60歳以上が多く、特に女性が多く推移している。		利用者から「利用者負担を見直してほしい(高齢者・障害者の負担軽減)」、「膝などに負担が少ない温水プールの利用で筋力がついた」、「夜間の開館日を増やして欲しい」といった意見や要望がある。	

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細(2年度の決算)		単位:千円	単位	29年度(決算)	30年度(決算)	1年度(決算)	2年度(決算)	3年度(予算)
1. 需用費	3,676	消耗品費、光熱水費、修繕料	千円	7,342	15,112	5,408	3,676	4,791
2. 役務費	127	手数料、保険料	千円	109	109	93	127	134
3. 委託料	14,738	委託料	千円	14,462	14,708	14,973	14,738	16,373
4. 使用料及び賃借料	3,826	機械借上料、放送受信料	千円	806	805	1,772	3,826	4,780
5. その他	41	備品購入費	千円	57	154		41	
② 特定財源の内訳(2年度の決算)		単位:千円	事業費計(A)					
1. 国庫支出金			千円	22,776	30,888	22,246	22,408	26,078
2. 都道府県支出金			千円					
3. 地方債			千円					
4. その他	1,397	利用料収入	千円	4,067	4,433	3,993	1,397	3,123
			千円	18,709	26,455	18,253	21,011	22,955

前年度増減理由	コロナによる利用制限の影響による使用料収入の減
---------	-------------------------

従事職員数	常時 1 人	最大 1 人	× 1 日 = 延べ 1 人
-------	--------	--------	----------------

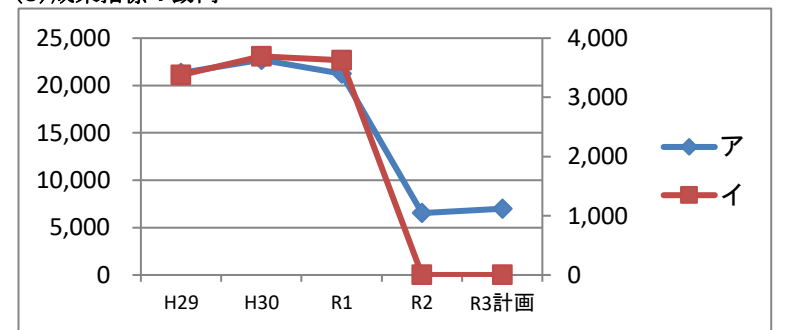
(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

① 主な活動		③ 活動指標名		単位	29年度(実績)	30年度(実績)	1年度(実績)	2年度(実績)	3年度(計画)
手段	2年度実績(2年度に行った主な活動)	ア	開館日数	日	295	296	267	237	296
	利用者説明会の実施 個人利用者への個別指導(プログラム作成等)								
② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)		④ 成果指標名		単位	29年度(実績)	30年度(実績)	1年度(実績)	2年度(実績)	3年度(計画)
目的	対象 高校生以上で健康状態が適当な方(市外者含む)のうち健康増進センターの利用を希望する者	ア	海上健康増進センター利用者数(延べ人数)	人	21,330	22,714	21,244	6,533	7,000
	意図 利用者の体力が付き健康になる								
対象意図		イ	海上健康増進センター教室の参加者数(延べ人数)	人	3,375	3,692	3,624	0	0

(4) 事務事業優先度評価の結果

① 成果優先度評価結果			② コスト削減優先度評価結果		
成果向上余地		かなりある	ある程度ある	ほとんどない	コスト比率
施策貢献度	大きい				下位 1/3
	普通		⑤		中位 1/3
	小さい				上位 1/3
評価結果		①	②	③	④⑤
成果優先度					(8)

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

① 進捗状況		☐ 完了	☐ 順調	☐ 概ね順調	☐ 停滞	☒ 実施困難
【コメント】(停滞・未実施・実施困難の場合、その理由)		教室の参加者数を成果指標としているが、コロナ禍で教室を実施していないため				
② 成果の状況		成果指標ア	成果指標イ	数値増＝成果向上	数値増＝成果向上	比較
【コメント】(低下の場合、その理由)		コロナ禍の施設内の密を避けるため、利用制限を行っている。教室の参加者数を成果指標としているが、コロナ禍で教室を実施していないため。				
③ 今年度取組事項(3年度に取組む主な事項について記載)		時期	内容	今後の方向性	現状維持	見直し
		通年	感染症対策を講じながら実施	拡大 縮小	☒ 現状維持 ☐ 廃止・休止	☐ 見直し ☐ その他()
		コロナ終息後	コロナ終息後、運動教室の再開			